

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 5 月 25 日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24530630

研究課題名(和文) 若者の政治的無関心とシルバーポリティクスに関する社会学的研究

研究課題名(英文) Sociological Analysis of Political Apathy and Silver Politics

## 研究代表者

高橋 征仁 (TAKAHASHI, Masahito)

山口大学・人文学部・教授

研究者番号：60260676

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：「若者の政治的無関心」は、これまで戦後日本における私生活主義の産物として考えられてきた。しかし、こうした時代的観点だけでは、政治的関心の加齢効果という単純な発達の傾向をうまく説明することができない。そこで、本研究では、国際比較調査などを用いてよりグローバルな観点から、政治的関心をめぐる年齢分業の普遍性と多様性について検討を行った。その結果、政治的関心の加齢効果、政治的関心のモジュール性、リスクと年齢分業の関係を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Political apathy among youth has been thought as a form of privatization after world war 2. This historical explanation, however, contradicts developmental increase of political interests after adulthood. In this study, we examined the universality and the diversity of the age polyethism on the basis of the second analysis of the world wide social surveys. As the results, we clarified (1) aging effect of political interests, (2) the modularity of political interests, (3) correlation of the survival risk and the age polyethism.

研究分野：社会学

キーワード：政治的無関心 私生活主義 年齢分業 モジュール性 性差

### 1. 研究開始当初の背景

若者の政治的無関心は、これまで、戦後日本における「私生活主義」の浸透という観点から説明されてきた。しかしながら、若者の政治的無関心は、かなり広範に見出される発達の傾向であり、日本の若者が諸外国の若者に比べて政治的関心が低いわけでない。むしろ年長者の政治的関心が突出している点こそ日本の特徴である。また、「私生活主義」という観点からでは、どのコーホートでも政治的関心に加齢効果がみられることを説明できない。これらの点から、社会学の通説となっている私生活主義の帰結としての政治的無関心という説明に疑問を抱き、代わりに、潜在的な年齢分業の一形態として、政治的関心の年代間ギャップを捉えることを着想した。

### 2. 研究の目的

「若者の政治的無関心」をめぐる従来の研究は、参加型民主主義の理念を前提として、そこから逸脱した現実を批判的に検討するという理念主義的な方法で行われてきた。しかし、こうした研究がモデルとしている西欧・北欧諸国でも、「若者の政治的無関心」は一般的傾向であり、一定のシルバーポリティクスが成立している。またそうした理念主義的な方法では、しばしば民主主義の抱える問題が若者へと原因帰属されてきた。

これに対して本研究では、そうした理念主義的な方法を取らずに、政治的関心に潜在する直観的なヒューリスティクスを析出し、その加齢特性や社会環境的条件との関連を明らかにすることを研究目的とした。より具体的に言えば、次の3点にまとめられる。すなわち、若者の政治的無関心が、かなり広範に見られる発達の傾向を有すること、政治的関心は単一構造ではなく、複数のモジュール的から複合的に構成されており、それぞれ異なった加齢効果を有すること、それぞれのモジュールは、一定の社会環境的条件下で活性化され、低リスクの社会ほど年齢分業が生じやすいこと、の3つである。

このような現実主義的な出発点をとることによって、本研究は、民主主義という政治システムが、一定の年齢秩序と妥協・共存しながら、複雑な社会的・文化的基盤の上で成立しているという事実を明らかにしていく。このような研究によってはじめて、民主主義の脆弱性に関して科学的にアプローチし、その克服可能性を議論できるようになる。若者の政治的無関心と高齢者のシルバーポリティクスは、ともに、社会の安定化に伴う年齢分業の一形態であり、適応課題に即した生活史戦略の一部であることが解明される。

### 3. 研究の方法

上述した研究目的を達成するために、まず本研究では、国際社会調査プログラムや世界価値観調査の2次分析を行い、若者の政治的

無関心の国際比較や政治的関心のモジュール性、それぞれモジュールの加齢特性について、検討を行った。また、政治的関心の年代格差を引き起こす社会環境的条件に関して、国レベルの環境変数を用いて検討した。

さらに、日本社会におけるシルバーポリティクスの存立構造を具体的に明らかにするために、「津波避難」や「原発事故」をめぐる年代と性別のギャップについて、質的・量的調査を行った。これらの調査によって、政治的関心が適応課題に即したヒューリスティックなものであり、年齢や性別によって異なる投資やリスクを反映していることを明らかにした。

### 4. 研究成果

このような複合的な調査研究によって、政治的関心に潜在する直観的なヒューリスティクスを析出することができたと考えている。

研究目的に照らして、これらの知見は、およそ次のように整理できる。

#### 若者の政治的無関心の準普遍性

政党政治や秩序維持に対する若者の政治的無関心は、一部の発展途上国を除けば、ほとんどの国や地域で見出される準普遍的な発達現象である(図1参照)。このことは、高齢者になるほど、社会の安定化や継承に対する関心が増す傾向があることを意味する。

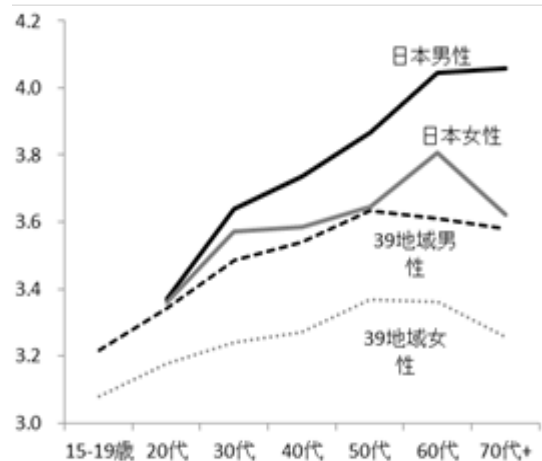


図1. 政治的関心の年代別平均 (ISSP2004: 問10)

#### 政治的関心のモジュール性

他方、選択の自由や子どもの養育、世代交代などのテーマであれば、若者は政治に無関心なわけではない。このことは、政治的関心が一元的構造を有するのではなく、モジュール的に構成されていることを意味する。したがって、若者と高齢者の違いは、政治的関心の高低にあるのではなく、その志向性の違いにある。図2では、弱者に対する救済志向と、民主化志向、秩序志向、自由志向が、相対的に独立した政治的モジ

ルールであり、それぞれ異なった加齢効果を持つことを示している。

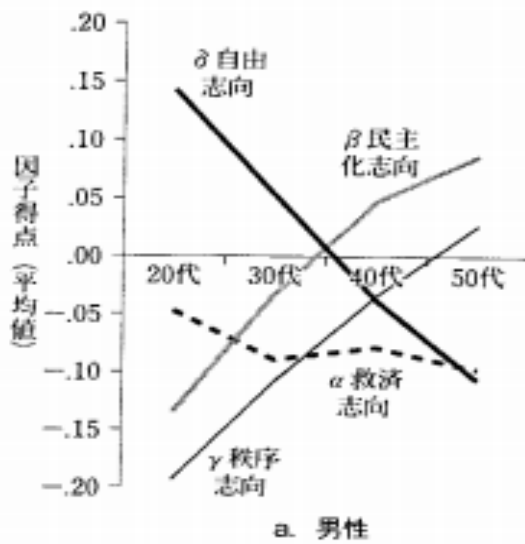


図2. 政治的関心内容の年代別比較

年齢分業の社会環境的条件  
 このような政治的関心をめぐる年代格差は、経済的に発展し、殺人などのリスクの小さい地域ほど大きくなる傾向が見られた(図3)。安定した社会環境的条件ほど、若者は配偶戦略に、高齢者は継承戦略へと重点投資することで、年齢分業が強化されると考えられる。災害時などでも、それぞれの年代や性別によって生活史戦略が異なるため、政治的関心やリスク対処行動について、ギャップが大きくなると考えられる(図4、図5参照)。

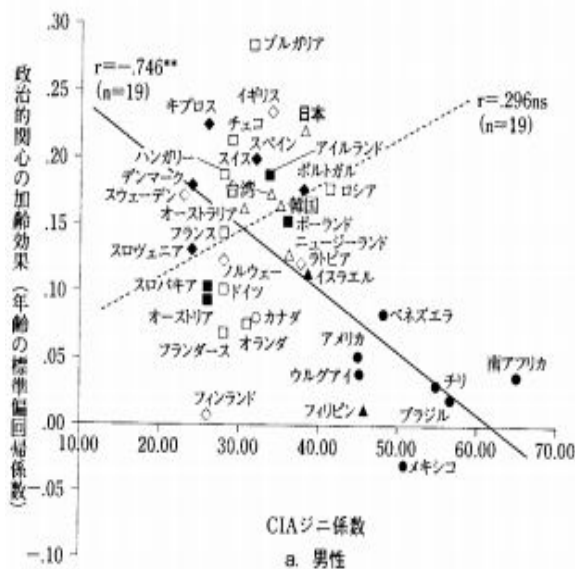


図3. 政治的関心の年代間格差とジニ係数の関係

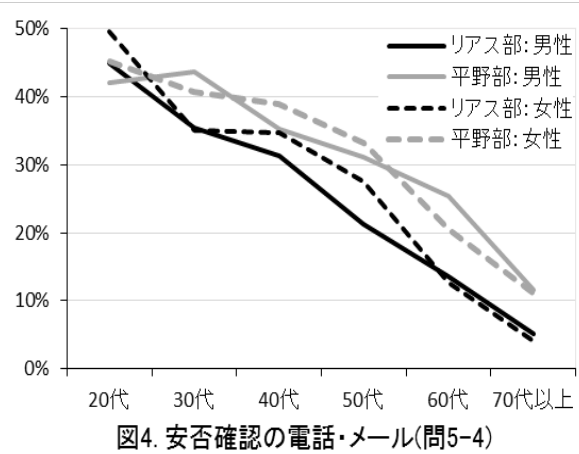


図4. 安否確認の電話・メール(問5-4)

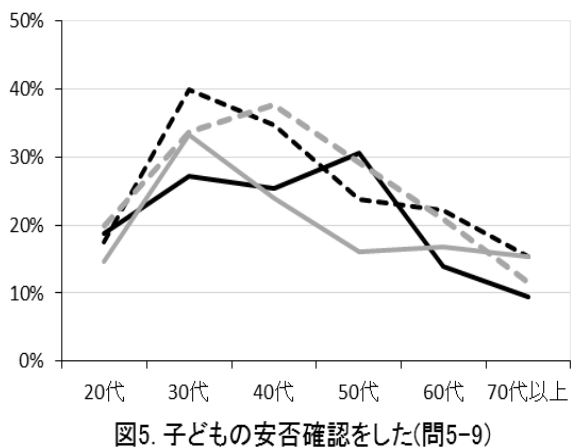


図5. 子どもの安否確認をした(問5-9)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 6 件)

Robin Goodwin, Masahito Takahashi, Shaojing Sun, Menachem Ben-Ezra, Psychological Distress among Tsunami Refugees from the Great East Japan Earthquake, *British Journal of Psychiatry Open Sep*, 査読有, 1 (1)、2015, 92-97  
 DOI:10.1192/bjpo.bp.115.000422

高橋征仁、低線量被ばく問題をめぐる母親たちのリスク認知とリスク低減戦略、災害復興学研究、査読無、7、2015、45-68

高橋征仁、沖縄県における原発避難者と支援ネットワークの研究2、山口大学文学会志、査読無、65、2015、1-16

高橋征仁、社会学におけるコンコルドの誤謬 フクシマ問題に寄せて、西日本社会学会年報、査読無、12、2014、95-104

高橋征仁、<理由なき反抗>の理由 青年期の道徳的相対主義とテストステロン、社会と倫理、査読有、28、2013、101-117

Robin Goodwin, Masahito Takahashi, Shaojing Sun, Stanley O. Gaines Jr., Modelling Psychological Responses to the Great East Japan Earthquake and Nuclear Incident, *PLoS ONE*, 査読有, 7(5), 2012  
DOI:10.1371/journal.pone.0037690

〔学会発表〕(計 11 件)

高橋征仁、災害文化と心の脆弱性、第 88 回日本社会学会大会、2015 年 5 月 20 日、早稲田大学戸山キャンパス(東京都新宿区)

Masahito Takahashi, The Difference between 50 Steps and 100 Steps, The 128th Meeting of Japan Sociological Association for Social Analysis, Dec 13, 2014, Soochow University, Taipei, Taiwan

Masahito Takahashi, Weighing the Costs of 311 Tsunami Disaster, UK-Japan Symposium and Workshop on Disasters, Nov 23, 2013, UCL, London, UK

高橋征仁、弱い絆の強さ 沖縄県における原発避難者のネットワーク、日本社会心理学学会第 54 回大会、2013 年 11 月 2 日、沖縄国際大学(沖縄県宜野湾市)

高橋征仁、堀江重郎、青年期における道徳性の揺らぎとテストステロン、第 2 回社会神経科学研究会、2013 年 1 月 31 日、自然科学研究機構岡崎(愛知県岡崎市)

高橋征仁、若者の政治的無関心とシルバーポリティックスのあいだ、第 5 回日本人間行動進化学会大会、2012 年 12 月 1 日、東京大学駒場 キャンパス(東京都目黒区)

高橋征仁、堀江重郎、テストステロンと道徳性、第 85 回日本社会学会大会、2012 年 11 月 4 日、北海学院大学(北海道江別市)

高橋征仁、道徳判断研究の最前線 テストステロンと道徳性、法と心理学会 13 回大会、2012 年 12 月 21 日、武蔵野美術大学鷹の台キャンパス(東京都小平市)

高橋征仁、草食系男子をめぐる虚実、宇部コスモスの会講演会、2012 年 9 月 15 日、宇部市勤労青少年会館(山口県宇部市)

高橋征仁、規範意識におけるユニバーサルカーブ、第 31 回日本思春期学会、2012 年 9 月 2 日、軽井沢プリンスホテルウエ

スト(長野県軽井沢町)

高橋征仁、福岡県の青少年の意識と行動友人関係と規範意識、第 70 回西日本社会学会、2012 年 5 月 19 日、鹿児島大学(鹿児島県鹿児島市)

〔図書〕(計 1 件)

田辺俊介、高橋征仁他、勁草書房、民主主義の「危機」 国際比較調査からみる市民意識、2014、256(19-41 担当)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 征仁 (TAKAHASHI Masahito)

山口大学・人文学部・教授

研究者番号: 60260676